

特集

筑波大学附属諸学校を巡る（第6回）

目次

- グラビア …… 01～02
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 03
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 04
- 謹賀新年 平成29年 今年もよろしくお願いいたします …… 05
- 特集 筑波大学附属久里浜特別支援学校の「いま」 …… 06～08
筑波大学附属坂戸高等学校の「いま」 …… 09～11
- 筑波大学附属学校群のこれまでとこれから …… 12
- 筑波大学はいま …… 13
- 第15回 茗溪会賞 …… 14～15
- 茗溪会 公開講座 「嘉納治五郎と孔子祭典」 守屋正彦 …… 16～17
- 茗溪会 公開講座 藤原教授の英語のはなし 第14弾
「英語の難問に挑戦しませんか？」 藤原保明 …… 18～19
- 桐の葉のつどい …… 20～21
- 茗溪・東西南北 …… 22～23
- 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25
- 平成28年秋の叙勲おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26 ■ 表紙のことば …… 26 ■ 編集後記 …… 26

茗溪



正月

2017

平成29年

no.1092



筑波大学一の矢宿舍

Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間: 平日(月~金) 9:30~17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っています。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビルレジ
TEL.03-5784-8831 (代表) FAX.03-5784-8832

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科
臨床工学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■看護学部

看護学科

理事長 中部謙一郎

常務理事 河野 隆二(S47農)

監査室 矢野 正人(S53院修 農)(神奈川茗溪会 会長)

教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(同 副会長)

教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

第15回 茗溪会賞顕彰式

筑波大学において 平成28年11月26日 (P.14～15 参照)



顕彰された皆様—嘉納治五郎像の前で

附属久里浜特別支援学校



運動会徒競争



地引き網体験

附属坂戸高等学校



大塚特別支援学校と坂戸高校とのスポーツ交流



高校生国際 ESD シンポジウム



動物介在活動を通じて高齢者を励ます
フレンドリー DOG & CAT



老人ホームの車いすを整備
大森学園高等学校



障がい者と健常者が一緒にスポーツを楽しむ
シオヤレクリエーションクラブ



伝統の「前掛け」の織り技を継承
芳賀織布工場と有限会社エニシング



将棋で子どもたちの交流づくり
筑波大学将棋部

茗溪会賞（社会貢献活動功労者）第15回顕彰から

（P. 14 参照）



チンドン祭に参加する子どもたち
萩原チンドン祭実行委員会



民俗芸能を継承する
懸田弘訓さん



被災地に新しい畳を届ける
前田敏康さん

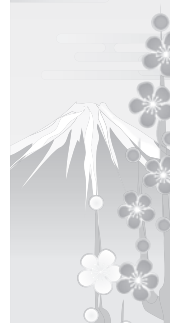


「地芝居」の魅力を伝える
蒲池卓巳さん



音楽を通して地域づくりをする
三浦一憲さん

年頭挨拶



筑波大学長

永田 恭介

明けましておめでとうございます。

茗溪会の皆様には、旧年中は様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

本学は、「新構想大学」として、この筑波の地に開学しました。以来、時代の流れとともに、大学をめぐる状況は大きく様変わりし、当時の「新構想」の多くがもはや「新構想」とは呼べないのが現状です。これを受け、本学は「新構想大学」から「未来構想大学」へとバージョンアップし、未来へのフロントランナーであり続けるためにさらなる挑戦と冒険を重ねています。その中で、学生も教職員も澁涸と、また懸命に頑張っています。

昨年の大学の活動の幾つかについてご報告いたします。教育に関しては、ディシプリン型の学問領域を大切にしながら、一方で学際融合型の斬新な教育プログラムを開発しています。国際的な通用性・信頼性の向上、国際競争力の強化、国際的に活躍できる人材の養成、学生・教員等の流動性の向上等を目指して、来年度には、全学的に大学院課程を学位プログラムシステムへ移行させます。その中で、今年の秋から、学生を募集する予定のグロー

バルイノベーション学位プログラム（大学院修士課程）では、日本、フランス、台湾の学生が、その3ヶ国を回って教育を受けられるカリキュラムとなっています。研究に関しても大きく前進しています。国際科学イノベーション拠点整備事業（COI）に選定されている

「高細精医療イノベーション拠点」は、その活動を実質化し始めました。また、来る4月には人工知能科学センター（CAIR）が設置され、人工知能に関する先進的研究を推進する予定です。9つの世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI: World Premier International Research Center Initiative）の一つとして創設された「国際統合睡眠医科学推進機構」は無事中間評価を終え、ますます充実した研究を展開しています。



本学のグローバル化も加速しています。世界のパートナー校と連携し、教育研究の資源をバリアフリーで共有するキャンパスインキヤンパス（CIC）システムでは、現在までにフランスのボルドー大学、台湾の国立台湾大学、ブラジルのサンパウロ大学、マレーシアのマレーシア工科大学と提携し、その活動を開始しています。

今後、海外パートナーを拡充する予定です。また、受け入れる多くの留学生のために建設しているグローバルレジデンス棟の半分が3月に竣工します。そこは、留学生と日本人学生がシェアする宿舎であり、日常的に国際性を体感できる宿舎です。様々な分野で学生たちも活躍しています。

例えば、昨年開催されたリオオリンピック・パラリンピック大会でも多くの学生、卒業生たちが活躍しました。オリンピック柔道81^{kg}級で銅メダルを、パラリンピック

柔道60^{kg}級で銀メダルを、パラリンピック水泳100^mバタフライで銀メダルを、50^{kg}自由形で銅メダルを獲得しました。また7人制ラグビーのベスト4進出にも二人の卒業生が貢献しました。

嘉納治五郎先生というレガシーに支えられる本学は、来たる2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、オール筑波大学として、選手としての参加のみならず、オリンピック・パラリンピック精神に関わるグローバルな視点での教育、研究においても世界を先導するとともに、東京大会の成功に貢献していこうという思いを強くしているところです。

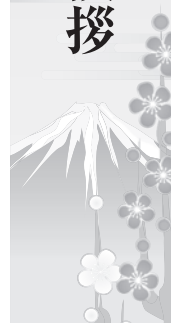
昨年は、様々な海外の卒業生・修了生と語らう機会にも恵まれました。留学生比率が増加する本学にとっては大切な機会でした。ドイツ・日本学長会議の途中で立ち寄ったベルリンでは、ベルリン同窓会のメンバーとも言ふべき卒業生・修了生に加えて現地で学ぶ予想以上に多数の本学学生たちと意見交換ができました。上海では、本学上海校友会および上海茗溪会と銘打った卒業生・修了生の方々とお会いできました。こうした方々との触れ合い、すなわち本学を慕う方々あるいは支えていただいている方々との触れ合いの中で、本学とそういった方々との密接な交流あるいはそれを可能とする場の重要性を再認識しています。

そういう理解の上で、今まさに様々な方々が一堂に集うことのできる場（筑波大学校友会）の準備を進めているところです。

貴会は東京茗溪会を源流とする法人格を持った集い입니다。貴会の前進的な運営・活動またそれらの改革に、そして同窓生らの集いの良きロールモデルとなっていただけることを大いに期待するところです。



新年のご挨拶



一般社団法人 茗溪会
理事長
江田 昌佑

明けましておめでとうございます。
全国会員諸兄姉の益々のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

昨年の地震、台風、豪雨などによって被災された方々に心からのお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い日常への復帰をご期待申し上げます。

リオ・オリンピック・パラリンピックの日本選手団の活躍は立派でした。特に茗溪関係の選手の活躍は見事で私どもの感動を呼びました。2020年に開催される東京五輪の大会準備は、この新春を契機に急ピッチで展開するでしょう。

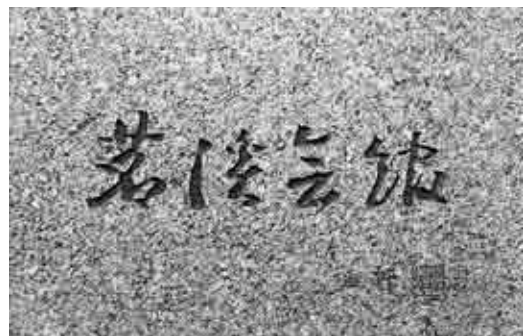
前回の東京五輪などで大活躍された、同窓の小野喬さん（昭29年体卒・鉄棒の小野）が、昨秋に文化功労者として顕彰された朗報がありました。われわれ茗溪人にとっても誇りとするところです。

茗溪会は、一般社団法人として四年を経過し、その移行に際して大きな課題でありました公益目的事業費消費

のノルマ期間が、当初計画より一年早く完了する（あと一年余で）目処が立ちました。このことは、全国会員、地域組織の役員の方々の、本会を愛する熱い思いとご協力により、本会が進行していることを物語っています。本年度のはじめに、代議員各位の意見もお聞きして「レビューと中期将来計画」を策定して、通常総会に報告し（本会HPに掲載）、今後の大綱として位置づけ、本会の平成の中興を目指していることを述べました。新年にあたっては、その歩みを一層強くしたいと望んでいます。

新装なった茗溪会館が活況を呈し始めています。東京茗溪会の総会は勿論のこと、茗溪・筑波大学産業人会は、毎月の例会を開催し、相互の知見や活力を活発に交流しています。茗溪会館は、茗溪人の象徴的存在であり不死鳥のように、われわれに勇気を与えてくれます。本会・理事会は、会館のどこどこに本会の歴史の重みや先達の熱い思いを偲ぶことができるように、遺作品、調度品、資料などを観られるように努力しています。そして、本会々員の将来にわたっての新しい希望と期待さらに勇気を喚起する拠点になるよう希求しています。

会館玄関の真正面の壁面に『茗溪会館 止軒』の銘板が目に入ります。われわれを懐深く導き入れるかのようです。



茗溪会館の銘板

茗溪の生んだ碩学・諸橋徹次博士が本会のために揮毫されたものです。

諸橋先生は、新潟県出身、1883（1982、明治41年）高師卒、文理大・東京高師教授、文化勲章受章、勲一等瑞宝章受章、大漢和辞典全十三巻刊行、元・茗溪会顧問で、勲一等叙勲祝賀会は、

当・茗溪会館で昭和51年に開催されています。

最近、諸橋先生の遺作品の扇子（掲載写真参照）が会館内資料室で発見されました。

茗溪会創設百周年を迎えるに当たって揮毫され、先生の絶筆となった遺文であります。『穆として清風の如し』と読みます。『茗溪の先達の成績は、これに似たものがあるように思うから茲に採録した。また、扇子は風を生ずるためのものだ。』と伝えられました。（大修館書店「諸橋徹次博士の生涯」より転載）



諸橋先生の遺作の扇子

本会・百周年当時を振り返ってみますと、本会の長老の幾人かが、前述の扇子を、四季を通して好んで愛用されていたのを思い出します。

古い保存資料の中に、本会会誌一五九号（明治29年4月号）から、二〇五号（明治33年2月号）があります。表紙の題字『東京茗溪会雑誌』は、勝海舟翁の揮毫です。

翁と親交のあった嘉納治五郎校長の口添えがあつてのことと遠察できるのです。

「温故知新」という言葉があります。新年に際し、この言葉のもつ意味を噛み締めながら、希望に満ちた目標に向かって邁進することが、われわれにとって大切なことと考えています。

最後になりますが、全国茗溪会々員の皆様に対し、本会事業遂行のため、本会益々の発展のために、ご鞭撻ご協力を切望してご挨拶いたします。



謹賀新年



平成29年
今年もよろしくお願ひいたします

一般社団法人
茗溪会

一般社団法人 茗溪会 理事長 江 田 昌 佑 (昭和30年卒教大体) 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL 03-3491-0136	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井 口 武 雄 (昭和40年卒東京教育大学法政) 三井住友海上火災保険㈱ 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111	一般社団法人 茗溪会 副理事長 西 川 潔 筑波大学名誉教授・博士(デザイン学) (昭和44年教大構成 昭和46年院修美) 〒305-0031 つくば市吾妻3-1-1-109 e-mail: q.nishikawa@gmail.com
一般社団法人 茗溪会 事務局長 高 野 力 (昭和48年卒教大農木工) 大塚事務所長 室 岡 和 彦 (昭和44年卒教大数)(平成1年卒筑修教) 筑波事務所長 立 山 雅 博	一般社団法人 茗溪会 理事 鵜 沢 力 (昭和63年卒筑一社会) 三井住友銀行 TEL 080-7937-0820 E-mail: tmuzawa@gmail.com	一般社団法人 茗溪会 理事 日本体育大学 教授 教育学博士 阿 江 通 良 (昭和48年卒教大体育) 日本体育大学 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 TEL 03-5706-0826 E-mail: ae@nittai.ac.jp
一般社団法人 茗溪会 理事 宮 尾 徹 (昭和54年卒筑二農林) バックラフト漂流記 (川下りBlog) 検索！	一般社団法人 茗溪会 理事 組織委員会 川 田 孝 一 委員長 (昭和39年卒教大総農科) 全国調査へのご協力に感謝！ 役立つ互助事業を協議中です。 〒194-0045 町田市南成瀬5-29-6 TEL 042-728-5428 連絡先 桜美林大学入試広報センター 相談役 TEL 042-797-6196	一般社団法人 茗溪会 理事 福岡経営労務事務所 所長 福 岡 一 雄 社会保険労務士 (昭和32年卒教大法政) 〒125-0042 東京都葛飾区金町3-27-3 TEL 047-361-2618 FAX 047-361-2643
一般財団法人 筑波学都資金財団 理事長 田 中 正 造 (昭和36年卒教大・健) 〒305-0005 つくば市天久保1-13-5 TEL 029-851-5152	学校法人 茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校 国際バカロレアDPコーススタート 理事長 中 川 喜久治 校 長 田 代 淳 一 (昭和59年筑波大修士教育研究科・理科) 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611	神奈川茗溪会 平成卒の「若手の会」も活動しています 会 長 矢 野 正 人 (昭和53年卒) 修院農 〒243-0032 厚木市恩名1198-3 事務局長 加 藤 充 洋 (昭和56年卒) 筑一社 (茗溪会理事) 〒252-0816 藤沢市遠藤857-6
富山茗溪会 会 長 坪 池 宏 (昭和56年卒筑二人間) 事務局 〒930-0097 富山県富山市芝園町3-1-26 TEL 076-441-3541	千葉茗溪会(公立高等学校長) 千葉県立幕張総合高等学校 校長 由 利 聡 (昭和55年卒筑体) 千葉県立八千代高等学校 校長 越 川 均 (昭和54年卒筑体) 千葉県立八千代東高等学校 校長 川 上 純 (昭和56年卒筑一自) 千葉県立船橋高等学校 校長 百 瀬 明宏 (昭和55年卒筑一人文) 千葉県立鎌ヶ谷西高等学校 校長 畑 順子 (昭和54年卒筑芸) 千葉県立柏の葉高等学校 校長 渡 部 徹 (昭和57年卒筑一人文) 千葉県立銚子高等学校 校長 加 瀬 健司 (昭和57年卒筑体) 千葉県立東総工業高等学校 校長 名 取 康雄 (昭和57年卒筑一自) 千葉県立匝瑳高等学校 校長 長 谷 川 茂 (昭和55年卒筑一自) 千葉県立木更津東高等学校 校長 山 本 昭裕 (昭和55年卒筑体) 千葉県立市原八幡高等学校 校長 石 塚 和美 (昭和57年卒筑二比文) 松戸市立松戸高等学校 校長 加 藤 俊文 (昭和59年卒筑体)	
香川茗溪会 会 長 高 井 信一 (昭和55年卒) 体育専門学群 香川県立観音寺第一高等学校長 事務局長 渡 邊 浩 司 (平成3年卒) 体育専門学群 香川県立高松高等学校 〒760-0017 香川県高松市番町3-1-1 高松高校内 TEL 087-862-6908 讃岐うどんのようにコシのある絆で、 会員相互の交流・親睦を深めています		

筑波大学附属久里浜特別支援学校の「いま」

本校の前身は、国立久里浜養護学校で、文部省（現文部科学省）直轄の障害児学校として、重度重複障害児を対象に昭和48年に開校されました。

その後、平成16年からは、筑波大学附属の知的障害を伴う自閉症児の教育を研究する学校として再出発し、平成22年度までの7年間、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、主に教育課程の開発研究を進めてきました。

平成23年度以降は、自立活動を中心に指導法の研究開発をはじめ、子どもの「思い」や「考え」などの情動や「表現する力」に視点を据えた指導法や個々の子供たちの実態把握と必要性や根拠に基づく指導法の開発や実践を通じての事例研究に取り組んできました。そして、平成27年度からは、授業研究やその改善を通じて、これまでに開発し実践してきた教育課程の見直しに着手しています。こうした実践や研究の成果は、毎年「自閉症教育実践研究協議会」を開催し、全国の知的特別支援学校等に発信しています。

1 本校の教育目標

本校では、「子供一人一人の良さや可能性を伸ばし、自立し社会参加するための基礎を培うことを目指す」ことを教育の目標としています。

本校に在籍している、知的障害に自閉症を併せた子供たちの障害の状態及び発達段階、特性等は多種多様です。そこで、個々の子供の様々な実態に応じて、適切な指導

を行い、それぞ

れのもっている

可能性を最大限

に伸長することが

本校における

教育の基本です。

特に、子供一

人一人の良さや

可能性を伸ばす

とともに、それ

ぞれの発達段階

に応じた知識・

技能等の習得を

図り、自立し社

会参加するため

の基礎を培うこ

2 教育の具体目標

本校で実践している教育の具体的な目標は以下の3点となります。

(1) 人とのかわりを楽しむ子供を育てる。

自立し社会参加するために必要な力は、人とのかわりを通して育まれます。人への関心やかかわるための力を育て、人とのかわりを楽しむことができるよ



学校の遠景と小学部玄関

うに指導しています。

(2) 気づき考え自ら表現する子供を育てる。

様々な体験を通して、一人一人が気づき考えることを大切にし、感じたことや考えたことを自ら表現できるように指導しています。

(3) 夢の実現に向かって努力する子供を育てる。

好きなことを見つけて思いっきり遊ぶ、興味関心のあることにじっくり取り組む、夢や希望を叶えるために努力するなど、目当てを持ちその実現に向かって行動できるように指導しています。

3 学校運営の方針

本校は、これまで知的障害に自閉症を併せた子供たちのための教育課程を開発してきました。この数年は、その教育課程を基盤に、一人一人の「思いや考え」を大切にし、望ましい行動を育てる実践を重ねています。

こうした経緯を踏まえ、今後は、教職員、保護者、関係者が連携し、一人一人の子供が「確かに育つ学校」を目指します。

子供を確かに育てるためには、一人一人の過去の成長の経過を踏まえ、現在の教育的ニーズに合致した指導をしなければなりません。子供にかかわる関係者が情報や



学校デザインプロジェクト

知恵を結集し、指導に当たることが求められています。教職員一同は、指導の根拠を明らかにしつつ、指導を評価し改善することを重ねることによって、子供の成長を追求することが可能となると考えています。そして、子供が「確かに育つ」ことを関係者とともに検証し、それを国内外に向け発信することによって、筑波大学附属学校として求められる先導的拠点、教師教育拠点、国際教育拠点としての役割が果たせるものと考えています。

4 幼稚部の教育

幼稚部では、子どもたち一人一人の様々な可能性を伸ばし、幼児期という人生のはじめの一步が、子どもたちにとってかけがえのないものとなるような生活づくりを目指しています。



イチゴ狩り

幼稚部の保育においては、一人一人の幼児にに応じて、安心できる環境の中で、人との信頼関係を育み、その上で、人や物とのかわりを広げ、コミュニケーション能力の向上を図ること、生活全体を通して、自分の好きなことや、やりたいこと、自分のできることを増やし、意欲的、主体的に取り組む中で達成感や満足感を味わうこと、基本的な日常生活動作の獲得を図ることをねらい、指導に当たっています。

3～5歳の年齢別の学級を基本の集団とし、一人一人の子供が学級の教師、友達、環境に安心感を持ち、自主性を発揮できるよう、学級の子供の実態に応じた日課(内容、時間、場所、体制)を工夫して指導を行っています。指導内容のうち「朝の遊び」では、各教室に物を操作して遊ぶおもちゃやままごと、絵本と関連した道具や人形、お絵描きや工作のコーナーを、プレイスペースには、

吊り遊具やトランポリン、スクリーナー、ボールなどの運動遊具と季節の掲示物を用意し、子供たちがそれぞれ好きな遊びに向かい、身近な教師と関わって遊ぶことを大切にしています。「遊び活動(素材遊び、音楽遊び、運動遊び)」「なかよしタイム(社会生活の指導)」のびのびタイム(自立活動の指導)」では、学級を基本にしつつ、子供の興味・関心等の実態に応じてグループの形態で活動に取り組んでいます。「個別の課題学習」と「自立課題」では、一人一人の認知やコミュニケーションの実態に応じて、一対一の楽しい遊びの中に課題を取り入れて指導しています。「朝の集まり」や「給食の集まり」、「帰りの集まり」では、集団への参加の基礎を育てるため、活動の中で友達や教師を意識し、一緒に取り組むことに意味をもてるように指導に当たっています。また、年間を通して季節の行事、自然や文化的な体験も大切にして活動内容を設定しています。

5 小学部の教育

小学部の教育課程は、生活活動の指導、社会生活の指導、余暇活動の指導、知的障害特別支援学校の各教科、自立活動等から編成しています。特に、「個別の課題学習」として国語・算数・自立活動の内容について、児童個々の実態や課題に合わせた指導を行っていること、「のびのびタイム」として、児童を、低学年・高学年それぞれで実態や課題を考慮した縦割りの学習グループを編成し、小集団の形で自立活動の時間における指導等を行っていることが大きな特色です。

小学部では、次の4つを指導の柱として、個々の児童の実態や特性に応じた教育活動を



海外からの留学教員との交流

6 寄宿舎の教育

- 展開しています。
- ① 心身の調和的発達を目指し、健康で規則正しい生活をする力を育てる。
 - ② 身近な大人や友達との関わりを広げ、適切なコミュニケーション力を育てる。
 - ③ 様々な体験活動等を通して、基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、一人一人が気づき考えることを大切にし、感じたことや考えたことを自ら表現できる力を育てる。
 - ④ 好きなことや得意なことを見つけ、進んで物事に取り組みうとする態度を養う。

本校には知的特別支援学校では珍しい寄宿舎があり、県外や県内に自宅があるものの、通学が困難な子供たち6名が生活しています。教室担任や保護者との連携を密にして、退舎後の家庭生活及び地域生活を見据え、好ましい人間関係を基盤としながら、基本的生活習慣の確立と生きる力の育成を図ることを目指した指導を行っています。また、誕生会やクリスマス会等の各種行事を企画することで、子供たちが楽しく寄宿舎生活を送れるような配慮も行っています。



寄宿舎お相撲大会

7 特色のある教育活動

○自閉症教育の先導的な拠点として

本校は、平成16年度より2期7年間、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、「自閉症児のための教育課程」に関する開発研究に取り組みました。特に、幼児期

から児童期までの一貫した教育カリキュラムを開発し、その成果を毎年2月に自閉症教育実践研究協議会の場で、全国に発信し続けてまいりました。平成23年度以降は、「知的障害を伴う自閉症幼児児童のための自立活動の指導」思い、考え、行動する子どもの育成を目指した授業づくり」をテーマに掲げ、全教職員一丸となって、研究活動や授業改善に取り組みました。これまでの成果をもとに、自閉症児のための指導法や教材に関しては、「明日から使える自閉症教育のポイント」という書籍にまとめています。

平成24年度には、アメリカ・ノースカロライナ州ウィルミントンにあるTEACCHセンターから、センター長他2名の教育心理士をお呼びし、自閉症幼児の指導のための研修プログラム「Ready, set, go」を本校向けにアレンジしてもらい、教職員全員で4日間にわたる研修を行うなど、全教職員の指導力の向上に向けた取り組みも行っています。

平成27年度からの研究テーマは、「子供たち一人一人が確かに育つ授業づくり」とし、子どもに対する根拠のある実態把握と的確な指導計画に基づく授業実践を重ねています。そのため、日常的にアセスメントや指導法を見直しながら、授業研究会と事例検討会を繰り返し行っています。

○教師教育拠点として

学校公開、公開セミナー、研究協議会などには、毎年全国から六百名程度の参加者があります。日常的な学校見学を目的とした来校者は、現職教員を中心に八百名近くにのぼります。この中で、平成24年度はカンボジア・ポリビア・インドネシア・ドイツなど8カ国から約80名の教員や行政機関の職員、大学の研究者など



免許状更新講習(教材づくり)

が視察に訪れました。

また、大学が主催する「免許状更新講習」事業の附属学校実践演習や「免許法認定公開講座」などにも積極的に協力し、全国の教員研修や教員の資質向上に寄与しています。

教育実習や介護等体験は、筑波大学だけでなく、神奈川県下の国立大学などからも学生の受入を行っています。

平成25年度からは、海外の大学からの研修生や国内の普通校の特別支援学級の担当教員、他の国立大学附属の特別支援学校の教員等を内地留学生として受け入れた研修も行っています。

平成28年には、幼稚園の教員が中心となって、「知的障害を伴う自閉症幼児教育研究会」を立ち上げました。この研究会では、教育関係者だけでなく、福祉・医療関係者や大学の研究者・学生なども交えて、自閉症の幼児教育の課題を共有し、指導法等の改善を広く深めていく予定でいます。

○国際教育拠点として

平成21年度より中国浙江省寧波市にある達敏学校（知的特別支援学校）との交流を開始し、同校の教員が本校を訪れ、自閉症児教育の研修を積んでいたきました。その後、平成23年度には、本校の教員が同校を訪問するとともに、併せて姉妹校協定を締結しました。

同校は、中国華東師範大学や附属する自閉症研究センターとの交流も盛んなことから、本校との親密な連携のもと、今後の中国国内での自閉症教育の拠点としての発展を求めています。本校への期待も高いものがあります。

平成25年度は達敏学校に加え、本校の教員が、中国江蘇省蘇州市にある蘇州工業園區仁愛学校と上海市の華東師範大学特殊教育学院と自閉症研究センターを訪問しまし



学校公開

た。平成27年からは、本校での授業場面などのネット配信やテレビ会議システムを利用した両校教員同士での授業研究会、合同ケースカンファレンスの開催などを行うことで、同国に対する自閉症教育の支援を積極的に行っています。



中国とのSkypeによる授業研究会

この他、東南アジアをはじめ、南米やアフリカなどの諸外国の障害児教育関係者の視察を積極的に受け入れ、諸外国の自閉症教育を支援する活動も積極的にを行っています。

○自閉症啓発の取り組み

平成22年度から、世界自閉症啓発デーの取り組みに合わせ、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所との共催により、毎年5月に「世界自閉症啓発デーin横須賀」を企画・開催し、地域での自閉症児の理解と自閉症教育の成果の発信に努めています。

平成25年度以降は、毎年12月の横須賀市の障害者週間に開催することで、この取り組みが横須賀市の教育委員会や障害福祉課の後援を得るまでになり、本校の存在や自閉症教育に関する理解を広めることができつつあります。



自閉症啓発デーのご案内

筑波大学附属坂戸高等学校の「いま」



本校は、戦後間もない昭和21年に周辺の1町5ヶ村学校組合立坂戸実務学校・坂戸女学校として創立しました。昭和53年からは筑波大学附属坂戸高等学校となり、平成6年に全国初の「総合学科高校」に改編し、普通教科ならびに農業・工業・家庭・福祉・商業の専門教科を総合的に教育する高等学校として全国から注目を集めることとなりました。

1 本校の概要

本校は埼玉県坂戸市に位置しています。周囲は今でこそ住宅地が増えましたが、少し歩くと田畑や平地林が見られ、自然が豊かな所です。高等学校の単独校で、1学年4クラス、全校生徒480名、職員53名という規模の学校ですが、敷地面積は約7万㎡あり、東京ドームの1.5倍の広さの中で、生徒が主体的に学べる教育環境を用意しています。

教育目標は、「普通教育及び専門教育を総合的に施すことによって、社会の変化に対応しながら生涯を通じて学び続ける資質や能力を身につけさせ、社会の進展や科学技術の進歩に対応し、持続可能な社会の創造とその発展に貢献できる人間を育成する。」ことです。近年「持続可能な社会の形成者」として、地域社会やグローバル社会における諸問題の解決に、主体的に取り組む態度を身につけることを掲げています。

2 総合学科への改編とキャリア教育

平成6年度に総合学科高校へ改編した際、4つの系列を設置しました。教育課程の改訂を経て、現在、生徒は2年次以降どれかひとつの「科目群」を選択し、加えて一般選択科目を選択することで一人一人異なる時間割で学びます。



校舎外観



研究大会で卒業研究発表をする生徒

(1) 生物資源・環境科学

農学・環境・生物に関する科目群

(2) 工学システム・情報科学

工学・物理・情報技術に関する科目群

(3) 生活・人間科学

衣食住・福祉・保育に関する科目群

(4) 人文社会・コミュニケーション

言語・文化・ビジネスに関する科目群

1年次では総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」の中でキャリア教育の充実を図っています。自己の個性について理解を深め伸ばそうとする意欲を持つこと、働く意義を理解し将来の生き方や進路に目的を持つこと、学ぶことの意義や目的を理解し教科・科目の選択に役立てることを学びます。各科目群の体験を通して生徒が自ら学ぼうとすることへの興味・関心を育てます。また、職場体験や筑波大学見学、特別支援学校との交流も実施し、体験を通して自己のあり方生き方を考えることを重視します。2年次3年次では、必修科目や選択科目を学びながら専門分野の学習とともに基礎基本となる学力の充実に努めます。3年次には生徒全員が卒業研究を行い、レポートを作成します。これらの成果を毎年2月に開催する研究大会を通して発表します。

3 グローバル人材育成

現在、もつとも注目されているグローバル人材育成について紹介します。

(1) 海外校外学習

海外での校外学習は「異文化理解」をキーワードに平成10年に始まりました。韓国をスタートに、オーストラ

リア・台湾・インドネシアと行き先は変わりましたが、ホームステイや学校間交流を続けました。27年度からはカナダへ行き、ホームステイ、異文化理解、社会的課題比較、語学研修をしています。

(2) SGHの活動

平成23年にボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校協定を結んで以来、インドネシアとの交流が盛んになりました。

平成26年文部科学省が開始したスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業に指定され、「先進的な総合学科を活かした持続可能なアセアン社会を創るグローバル人材の育成」を研究開発課題に、現在3年目の実践を続けています。



全国SGH校成果発表会

国際フィールドワーク 毎年夏にインドネシアにてコルニタ高校と環境林業省附属高校の生徒たちと共に、人と森の関係について考え、持続的に森が維持されていくための方法を考える活動をしています。

高校生国際ESDシンポジウム 東南アジア各国と日本の高校生たちが毎年秋に東京キャンパス文京校舎に集まり、持続可能な社会づくりのためのアイデアを共有するシンポジウムを開催しています。

全国SGH校成果発表会 毎年秋に本校が主催し全国のSGH校の生徒や海外の生徒を招き、文京校舎で課題研究の成果発表会を実施しています。世界の人たちと共に学び、集う場所はコミュニケーション能力や問題解決能力の向上につながっています。

(3) 国際バカロレア

国際バカロレアとは、国際的視野を持った人材を育成するため、生徒の年齢に応じた教育プログラムです。本校では日本語によるディプロマ・プログラム(DP)の導入を開始しました。現在は校舎を改修し、DPに必要な施設設備を導入しています。教員がワークショップに参加し研修を深めています。平成28年6月にDP候補校に認定され、実施に向けた準備を進めています。

4 最後に、特徴的な活動を紹介します。

(1) インクルーシブ教育

本校は、特別支援学校との交流が盛んです。1年次には生徒全員が筑波大学の特別支援学校や地域の特別支援学校を訪問し交流しています。福祉の科目を選択した生徒は、車いすや介助器具を学ぶと共に、交流を続けます。農業の科目を選択した生徒がサツマイモを育て、視覚障害のある生徒が収穫することも毎年続けています。また、

近年オリンピック・パラリンピック教育の一環として、本校と特別支援学校とのスポーツ交流も行っています。



生徒が考案したゲームで交流

(2) 課外活動

課外活動については体育部13団体、文化部8団体が活動しています。中でも自転車競技部は2015年ジュニアアジア選手権大会（タイ）で5冠獲得、2015年ジュニア世界選手権大会ロードレース（米国）で4位、2016年アジア選手権大会（日本）において1位を獲得しました。



自転車競技世界選手権 梶原悠美さん

(3) PTA・後援会活動

本校のPTAは後援会とともに盛んに活動しています。夏から秋にかけては研修旅行、親子美化活動、黎明祭（文化祭）へ参加、マラソン大会の応援が続きます。どの行事も多くの方が参加を楽しみにしてくれています。生徒の卒業後は、後援会員として学校を支えていただき、大変ありがたいと思っています。

（文責：副校長 石井克佳）



PTA親子で美化活動

筑波大学附属学校群の

これまでとこれから

筑波大学名誉教授・特命教授
前理事副学長・附属学校教育局長

石隈 利紀



この度「茗溪」で、「筑波大学附属諸学校を巡る」という特集を通して附属学校を紹介する機会をいただき、心から感謝しております。今日日本の学校教育が変わろうとしているなか、筑波大学の11の附属学校が新しい教育課題に取り組んでいる様子をお伝えできれば幸いです。本稿では、特集のまとめとして、筑波大学附属学校群のこれまでとこれからについてお伝えします。

1 筑波大学附属学校群の過去と現在

筑波大学には附属学校が11校あります。筑波大学の附属学校はそれぞれの歴史をもって、東京教育大学、筑波大学等の附属学校として参加してきたのです。したがって、それぞれの学校が独自の教育文化をもつという強みと11校がまとまりにくいという課題をもっています。それに対応するために、筑波大学では学校教育部、そして（国立大学法人化後は）附属学校教育局において11校の管理と支援を行ってきました。附属学校教育局に指導教員（教育・心理・障害科学等の大学教員）を置き、筑波大学の教育研究活動について附属学校の連携を図るとともに、附属学校の教育活動等に関し、指導及び助言を行っています。自治体の教育委員会の機能と似ていますが、附属学校と筑波大学の共同研究を進めるところに独自性があります。さらに、2015年から11の附属学校を一つの群（クラスター）としてとらえ、「附属学校群」として、筑波大学および社会に貢献することをめざすようになりまし。附属学校群のコンセプトは、附属学校11校の幼児児童生徒の交流により良質の教育と研究をめざす

という側面と、（厳しい経営状況にある国立大学の附属として）よりしつかりとした経営を行うという側面をもっています。筑波大学附属学校群として、確かな経営基盤をもち、学校教育に関わる発信を行っていききたいと思っています。

2 筑波大学附属学校群の現在と未来

今日、筑波大学附属学校群には、社会の教育におけるニーズに応える責任と能力があります。国立大学法人は6年間の第3期中期目標・中期計画の期間に入っております。附属学校群の中核の計画は、「グローバルな素養を育てるカリキュラム開発」、「筑波型インクルーシブ教育システムを目指したプログラム開発」、「オリンピック・パラリンピック教育の推進」などです。この特集で紹介した学校の強みを活かして、ダイバーシティ共生（人種・宗教、身体的特徴（障害を含めて）など多様な人々が共に生きる）の社会をつくり促進することをめざして、グローバル人材育成とインクルーシブ教育を推進します。

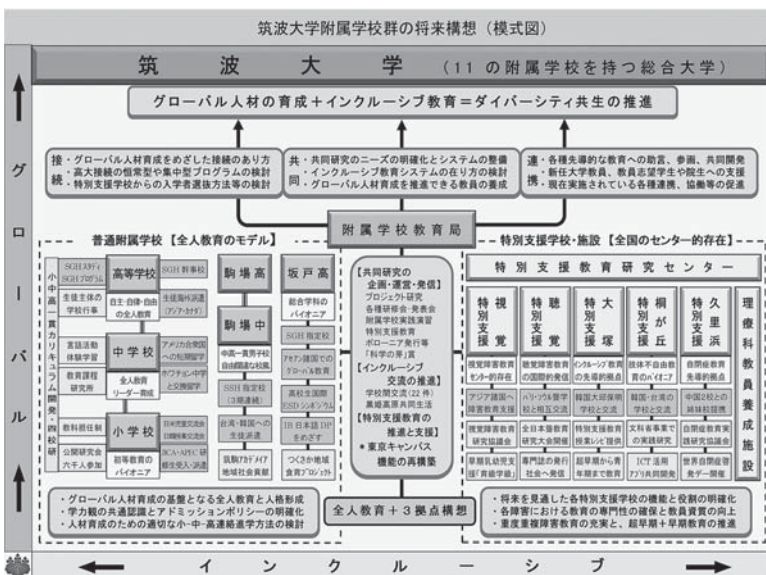
グローバル社会では、多様な文化をもつ人々と協力することが求められます。そしてインクルーシブ教育では、障害の有無にかかわらず共に学びことをめざしています。筑波大学附属学校群では、ダイバーシティ共生には、グローバルな側面とインクルーシブな側面を重ねることが必要だと考えています。多様な人々に対して寛容で、互いの強みを活かし合い、弱さを補い合って、生きていく：そんな社会を作る人材を附属学校群で育てることをめざしています。この教育の一環として、2015年、2016年、附属学校群では「黒姫高原共同生活」を行いました。2016年は、小学生から高校生まで様々な障害のある児童生徒を含む73名が、附属11校中8校から参加して、多彩な交流を行いました。

3 附属学校群の未来に向けた課題

ご紹介したように、筑波大学附属学校群は豊かな歴史と教育実績をもち、ダイバーシティ共生社会を支え

る人材育成というビジョンをもっていますが、課題があります。第一に、附属学校群の教育・研究成果を、日本の教育、世界の教育に役立てるように発信することです。ウェブページの充実、メディアへの発信などさらなる戦略が求められています。第二に、大学との連携や大学および附属学校OB同窓会との連携を充実させることです。国際バカロレア（IB）教育の促進において、筑波大学教育研究科、附属坂戸高校、茗溪学園の担当者が定期的に交流し、連携を始めました。第三に、附属学校群として経営基盤をしっかりとすることです。筑波大学の一人として、事業費や研究費の獲得など自主的な努力を重ねながら、産業界等との連携も行っております。

筑波大学附属学校群が、筑波大学ファミリーの一員として、さらに発展することを願っております。みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。



筑波大学はいま

筑波大学とアンダーアーマー(株式会社ドーム)が
包括的パートナーシップ協定を締結



本学と米国アンダーアーマーを日本で展開する株式会社ドームは、包括的パートナーシップに関する協定を締結しました。本協定により大学スポーツの運営方式に関する共同研究を実施し、スポーツを通じた社会、地域、学生生活の充実活性化、スポーツの産業化等を目指します。

第一弾として、本学のスポーツエンブレムを新たに制定し、それを冠したアンダーアーマー製のユニフォームとライセンス商品を開発しました。11月15日に東京キャンパスで協定締結に伴う発表イベントを開催し、新ユニフォームをまとったアメリカンフットボール部、硬式野球部、女子バスケットボール部、男女ハンドボール部、ラグビー部、男女ラクロス部の選手と、ライセンス商品を身につけた学生が紹介されました。

第40回秋季スポーツ・デー

11月12、13日に第40回秋季スポーツ・デーを開催しました。両日とも晴天に恵まれ、延べ1万人以上が参加し、スポーツを楽しみました。

サッカーやバレーボール等の「正式種目」のほか、体育会所属団体による「サークル企画」、身体が不自由な方や体力に自信がない方でも楽しめる「アダプテッドスポーツ」、吹き矢などのユニークな体験ができる「学生委員会企画」など盛りだくさんの2日間でした。

第42回学園祭「雙峰(そうほう)祭」

11月4日から6日の3日間、第42回筑波大学学園祭「雙峰祭」を開催しました。

学園祭実行委員の学生を中心に、子ども向けの企画や名物授業の体験、研究機関の紹介、受験生応援など、約400の企画が催されました。後夜祭のファイナレには、本学附属病院に入院中の子どもたちが描いた原画を元に制作された花火が上がり、延べ3万5千人を超える来場者に恵まれた今年の雙峰祭が締めくくられました。

期間中には卒業後20年を迎える同窓生を対象にホームカミングデーが開催され、茗溪会より50万円の助成をいただきました。



右・西川 潔
茗溪会副理事長
左・永田 恭介 学長



林悠准教授が「つくば奨励賞」若手研究者部門を受賞



(左から) 茨城県科学技術振興財団理事 江崎玲於奈氏、林 悠准教授、つくば市長 五十嵐立青氏

国際統合睡眠医科学研究機構の林悠准教授は「夢を生み出すレム睡眠の意義とメカニズムの解明」の研究が評価され、「第26回つくば奨励賞」若手研究者部門を受賞しました。この賞は、茨城県内において顕著な研究成果を収め、今後の活躍が期待される40歳以下の研究者に贈られます。11月22日につくば国際会議場で授賞式典が開催され、江崎玲於奈賞、つくば賞があわせて表彰されたほか、受賞者らによる記念講演が行われました。

躍動する人文社会研究 筑波大学人文社会系 研究発信月間

10月15日から12月10日の期間に、本学人文社会系と人文社会国際比較研究機構(ICR)が中心となり、「筑波大学人文社会系研究発信月間」を開催しました。

11月5日には東京キャンパスにてシンポジウム、「逆境からイノベーションへ」を開催し、蒲島郁夫氏(熊本県知事、元筑波大学教授、東京大学名誉教授)の基調講演ほか、児島明佳氏(日本学術振興会研究事業部研究事業課長(兼)研究倫理推進室長)、辻中豊教授(ICR機構長)が講演しました。

「筑波大学人文社会系研究発信月間」は、社会的要請の高い人文社会系分野の研究成果を広く社会に伝えることを目的として、今後定期的に行います。

大学日本一、男子バスケットボール部 インカレ3連覇!!



大学バスケットボールの日本一決定戦「第68回全日本大学バスケットボール選手権大会」で、本学男子チームが東海大学を破り3年連続4回目の優勝を飾りました。

さらに、最優秀選手賞・得点王に体育専門学群3年の杉浦佑成さん、優秀選手賞に同4年の生原秀将さん、同3年の馬場雄大さんが選ばれました。

第15回(平成28年度) 茗溪会賞(茗溪会の顕彰)

平成14年、茗溪会は創基百三十年を迎え、この年を第一回目として、人材育成功労者と青少年の社会貢献活動功労者を対象とする顕彰事業をスタートさせました。

その後、一般の方々の社会貢献活動功労者も顕彰対象に広げるとともに、平成24年度からは、筑波大学の大学院生の社会貢献活動や研究も顕彰するようになりました。また、茗溪会では、こうした社会貢献活動や研究だけではなく、芸術分野で優れた卒業作品を制作した筑波大学の学生に対しても、毎年顕彰を行っています。

今年度(平成28年度)の一般の方々を対象とする茗溪会賞の顕彰式は、平成28年11月26日(土曜日)に、筑波大学の学生会館で行われました。

顕彰式では、本会の江田昌佑理事長の挨拶に続き、受賞者が紹介され、賞状と記念品が授与されました。

次いで、筑波大学の稲垣敏之副学長が、ご来賓として



祝辞を述べられ、さらに西川潔選考委員長から選考経過が説明され、受賞者を代表して、懸田弘訓さんが挨拶されて顕彰式は終了しました。

顕彰式の後、受賞者の皆さんを囲んで祝賀会が開かれました。

受賞された皆さんからは、それぞれの活動の背景に



祝辞を述べる稲垣副学長

ある高い志が述べられ、「今回の顕彰でこれまでの地道な活動が高く評価されたことがとても嬉しい。このような活動を今後も引き続き着実に続けていきたい」という、社会貢献活動に対する新たな決意の言葉も述べられました。

受賞者紹介

(順不同 敬称略)

団体

福祉施設等で動物とのふれあい活動

フレンドリーDOG&CAT

(代表 宗像 宏美) (埼玉県)

フレンドリーDOG&CATは、動物が飼えない環境にある福祉施設や、学校・保育園などを訪問して、連れて行った犬や猫などの触れあいを通して、ストレスを軽減し元気を取り戻してもらう「動物介在活動(アニマルセラピー)」を行っているボランティア団体である。

訪問した直後はさほど反応がなかった人たちも、犬や猫の姿を見たり抱いたりしているうちに、「ペットを飼っていたときのことを思い出した」などと、涙ぐんだり笑ったりと、表情が豊かになり、離れがたくなって、再訪問の日を待っているという。

老人ホームの車いすを修理し、

中古の車いすを再生して海外に贈る活動

大森学園高等学校「車いすメンテナンスグループ」

(顧問 小笠原 健太) (東京都)

大森学園高等学校の「車いすメンテナンスグループ」

の生徒たちは、工業科で学んだ技術を生かし、毎月一回、近くの老人ホームに赴き、車いすの掃除、パンク修理、ブレーキの調整や空気入れなどの整備活動を二十年にわたり続けている。また、平成12年からは、中古の車いすを再生して海外に贈る国際協力活動「空飛ぶ車いす」に参加し、廃棄される車いすを引き取って新品同様に整備し、スリランカや韓国など17カ国に八百台以上贈る活動も続けている。この活動を続けた卒業生の中には、これで車いすの重要性に目覚め、「整備するだけでなく、よりよい車いすを作りたい」と、車いす製造の会社就職をする生徒も出ているという。

障がい者も健常者と一緒に

「かけっこを楽しむ」陸上教室

NPO法人「シオヤレクリエーションクラブ」

(理事長 塩家 吹雪) (千葉県)

塩家吹雪さんが理事長を務めるシオヤレクリエーションクラブ(SRC)は、障がい者と健常者が一緒に練習したりレクリエーションを楽しむクラブで、未就学児から中学生までを対象とする「ジュニアかけっこ教室」と中学生から一般までを対象とする「陸上教室」の二つがある。

塩家さんは、東京北区にある陸上チーム「AC・KITA」で、障がい者と健常者がともに切磋琢磨し、パラリンピックに出場する選手を輩出するといった本格的な陸上競技を指導する一方で、このSRCの活動を通して、全国どこでも障がい者が健常者の大会に出場できる環境を実現させたいと考えている。

伝統の前掛けを織りつなぐ

前掛け専門販売会社「エニシング」

(代表 西村 和弘) (東京都)

前掛け製造「芳賀織布工場」

(代表 芳賀 正人) (愛知県)

小金井市の前掛け専門販売会社「エニシング」の若手

社員三人は、厚手の綿生地で作られた「前掛け」の伝統的な織り技を学ぶため、かつての一大生産地であった豊橋市の「芳賀織布工場」で修行に励んでいる。酒屋や米屋でなじみの「前掛け」は、衣服の汚れや破れを守り実用的であるため昭和四十年代には大流行を迎えたが、近年需要が低迷してきて、次代への継承が困難になってきた。この伝統的な前掛けに、新しいデザインなどの付加価値を加えることによって新たな需要を生み出した販売専門店を運営する「エニシング」では、その製造技術を直接習得することにより、衰退しつつある貴重な伝統技術の継承を図っている。

将棋を通じて

放課後の居場所づくりや交流を図る

ＴＩＡＣＴ企画「筑波大学将棋部」

(部長 小原 悠太) (茨城県)

筑波大学将棋部は、関東大学将棋連盟などで活躍しているが、将棋を通して子どもたちの放課後の居場所づくりに協力したり、「つくば小中学生将棋大会」を主催運営するなど、地域に貢献する活動にも力を入れている。

いまの子どもたちは各自ゲーム機を持ちバーチャルな世界での遊びに夢中になっていて、人と接し、相手と会話をするという生きたコミュニケーションを取ることが少ない。そこで、地域の子どもたちが集いあい、直接盤を囲んで、懸命に相手に勝つためにやりとりをしあうことで、子どもたちどうしが交流を深め成長していくことを期待し、その場を提供したり相手をする活動を行っている。

五十回続く「全国選抜チンドン祭」を継承

「萩原チンドンまつり実行委員会」

(実行委員長 岩田 晴季) (愛知県)

愛知県一宮市の萩原商店街では、地域活性化を目指し「全国選抜チンドン祭」を昭和42年から開催しており、今年で五十回目を迎え地域に定着している。関東、関西、

九州などの全国から二十チームも集まって技を競うこれだけ大規模なチンドン祭は、富山市と双璧を成すが、十年ほど前は「懐かしい昭和の名残」と受け止められていた。そこで、岩田さんを実行委員長とする「萩原チンドンまつり実行委員会」は、地元の多くの人々の協力に加え小中学生にもゴミ分別や看板作りなどの役割を与え、子どもも大人も地域住民を巻き込んで、地域が一体となる祭りへと盛り上げることに成功している。

..... 個人

福島県で民俗芸能を

存続させる活動を続ける

懸田 弘訓 (福島県)

東日本大震災で福島県の民俗芸能は壊滅的な打撃を受けた。高校教師であった懸田さんは、五十年以上にわたって福島県内の千二百に及ぶ民俗芸能を研究してきた。しかし、東日本大震災後、文化庁の委託で調査を行ったところ、浜通り(福島県太平洋沿い地域)では民俗芸能の三分の二は存続の危機を迎えていることが分かった。そこで、懸田さんは、NPO法人「民俗芸能を継承するふくしまの会」を立ち上げ、団体相互の交流をするなど存続の気運を盛り上げ、昨年十月にはついに南相馬市で盛大に発表会が開催できるまでになるなど、民俗芸能の保存、継承、発展に尽力している。

被災地の避難所に畳を届ける

前田 敏康 (兵庫県)

神戸で畳店を営む前田さんは、東日本大震災時に「避難所に畳を敷き、被災者の方々の痛みを少しでも和らげられたら」と考えたが、果たせなかった。そこで、三年前、事前に用意しておき、被災地の避難所に新しい畳を無料で届ける「5日で五千枚の約束。」プロジェクトを発足させ、実行委員長になった。避難所に届けられる畳は、リラックス、抗菌、防音などの効果があり、湿度調整機能もあってストレス緩和が期待できる。いま、このプロジェクトには全国四百以上の畳店が加わり、その協

力により災害時には八千枚の畳が提供できる態勢が整ってきた。今年四月の熊本地震の際には、全国の畳店から県内三十八の避難所に六千二百枚の畳を届けた。

全国の地芝居を盛り上げる

お坊さん

蒲池 卓巳 (愛知県)

真宗大谷派の副住職でもある蒲池さんが、農村歌舞伎とも呼ばれる「地芝居」の情報サイト「地芝居ポータル」を開いて五年になる。蒲池さんが、この活動をはじめたきっかけは、学生時代に「地芝居」の魅力にとりつかれ、僧侶としての勤めの合間に全国の地芝居公演を見て歩き、地芝居を知らない人にも地芝居の魅力や面白さを知ってほしいと考えたからである。現在は、五人の仲間とともに手分けして集めた全国百五十以上の団体や八十件以上の公演日程や公演場所などの最新の情報を「地芝居ポータル」で紹介し、伝統文化の普及に貢献している。

音楽のつながりを地域づくり

三浦 一恵 (茨城県)

二十年前に東京下町からつくば市に移り住んだ三浦さんは、音楽を通して市民の活気ある交流を目指そうと「つくば・まちかど音楽市場ネットワーク(現まちかど音楽市場)」を立ち上げ、市や商工会議所の支援を得て、登録演奏家を募り、「まちかど音楽祭」を企画し、市の様々なイベントに参加してきた。そして今は、活動の拠点を周辺地域に移して、様々なジャンルの演奏家によるライブを披露したり、森の中で音楽祭を開いたりしながら、子ども達を育てる場としての地域の力を育んだり、子どもも大人も音楽を楽しむことによって地域の活性化を図ることに尽力している。

なお、大学院生の顕彰、芸術部門の顕彰については、今後二月に選考を行い、筑波大学の卒業式で顕彰を行う予定です。顕彰者の紹介は、次号(平成29年春号)で行います。

『嘉納治五郎と孔子祭典』

講師 筑波大学教授

守屋 正彦（茗溪会 理事）

（平成28年8月28日（日）
茗溪会館5Fラウンジ）

このたび、茗溪会のご協力により、筑波大学芸術系教員の復元研究成果の公開として「嘉納治五郎と孔子祭典」を茗溪会館五階にある同窓のラウンジにて展示いたしました。会期は8月22日（月）～28日（日）までと短い期間でしたが、同窓ゆかりの嘉納治五郎先生（以下敬称略）の文化面での功績、また湯島聖堂ゆかりの筑波大学資料の一端を披露し、芸術系教員による湯島聖堂大成殿本尊孔子像の復元研究成果をご紹介します。

展示の経緯は嘉納治五郎が東京高等師範学校の校長であった1907（明治40）年に、孔子の祭典である「積奠（せきてん）」が復活したことに始まります。

古代より宮中行事で行われ、江戸時代には幕府教育の中心として湯島聖堂をはじめ各地の藩校で「積奠」が開かれていました。維新後、湯島聖堂は明治政府に接収され、1869（明治2）年に大学、1871（明治4）年に文部省、翌明治5年には聖堂で文部省博物館によるわが国最初の博覧会が開かれ、博覧会が終了した同年9月に、日本最初の師範学校が同地に誕生しました。

湯島聖堂の祭器や什宝は浅草文庫、のちに内閣文庫、東京国立博物館に収蔵されていきました。そのため、孔子の祭典は1867（慶応3）年以降は行われませんでした。明治になってからは文明開化の新たな政策の中で、西欧の思想や文化の摂取と、これまでわが国が学んできた孔子学、漢学文化の尊重という二つの立場の狭間で相

克し、模索する時代環境であったようです。そのような中で、ヨーロッパを視察した岩倉具視は帰国後に孔子学に基づいた道德教育の在り方を推進し、政府高官の股野琢、広瀬進一、さらに学者、政治家として知られる谷干城、川田剛、実業家渋沢栄一らが相集い、東アジア文化に共有の、孔子学を学ぶ斯文学会が1880（明治13）年に創設されました。その折に宮内省は「風教を振張し文学興隆する旨意」により金千両の助成金を出しています。

湯島聖堂の敷地は高等師範学校が使用していましたが、1903（明治36）年松平大学頭（陸奥守山藩）邸（大塚）の跡地に東京高等師範学校が移転したのを機に渋沢栄一が嘉納のもとを訪ね、孔子祭典の話を持ち上がりました。「明治三十九年に至り、當時聖堂を管理した東京高等師範学校の職員の有志で、積奠の禮が久しく欠けていることを遺憾とする者が多く、孔夫子を崇敬し、我が国における其の教化を感謝する誠意をあらわすために、その祭典を大成殿で行うことを計画したが、さらに廣く同志を集めて祭典を盛大に行うことを議決」し、「孔子祭典會」が創立されるに至りました。（鈴木三八男編『聖堂物語』より引用）

そして、1907（明治40）年に湯島聖堂大成殿において、第1回孔子祭が催されました。初代祭典委員長には嘉納治五郎が就任し、当時の写真が物語るように斯文学会をはじめ、各界を担う逸材が湯島聖堂に相集い、湯島



孔子祭典 1907（明治40）年 湯島聖堂大成殿

聖堂大成殿には多くの会衆が埋め尽くし、孔子祭典行事は盛大なものとなりました。

この時に遥拝した孔子像は林羅山から受け継がれてきた幕府教学の象徴でしたが、関東大震災で失われてしまいました。筑波大学芸術系教員による復元研究は、この罹災した湯島聖堂大成殿の内陣を飾った孔子像、四配像や、壁面に掲げられた十六面の賢儒画像扁額を復元することから始まりました。その研究成果は2007（平成19）年に『孔子祭復活百周年記念事業 草創期の湯島聖堂よみがえる江戸の学習空間』展（…平成19年10月6日－



湯島聖堂孔子座像模像 山中泰山作



湯島聖堂大成殿本尊復元彩色像（乾漆・彩色）

造像 柴田良貴 筑波大学教授
彩色 程塚敏明 筑波大学准教授
助言 藤田志朗 筑波大学教授
CG解析 木村 浩 筑波大学准教授

張徳川家初代）から奉納されたものでした。造像は当時最高の仏師が担当したことが明らかで、仏像同様に華やかな彩色が施されていたものでした。復元は孔子像を模写した渡辺小畢（畢山子）の画軸をもとに江戸時代の彩色を再現したものです。茗溪会ラウンジでは、本来、ずしの中にあつて見ることでできない孔子像の背面もご覧いただけます。細部に至る孔子の服飾、その意匠をご覧いただきます。

また、会期中には「嘉納治五郎と明治の徳教―高等師範学校長が復活させた孔子祭について―」



11月25日、湯島聖堂会場）として開催され、孔子像をはじめとする復元の成果は湯島聖堂に収められ、復元した金銅製の孔子像は本尊として迎えられました。

茗溪会での展観は、その後の復元研究成果を紹介するもので、彩色の復元像となっています。

この像は江戸が開府して間もないころに、徳林羅山が徳川義直（家康九男、尾張徳川家初代）から奉納されたものでした。造像は当時最高の仏師が担当したことが明らかで、仏像同様に華やかな彩色が施されていたものでした。復元は孔子像を模写した渡辺小畢（畢山子）の画軸をもとに江戸時代の彩色を再現したものです。茗溪会ラウンジでは、本来、ずしの中にあつて見ることでできない孔子像の背面もご覧いただけます。細部に至る孔子の服飾、その意匠をご覧いただきます。

「湯島聖堂「孔子像」復元チームが語る、草創期の彩色像の再現」と題して、公開講座を行いました。当日は茗溪会会議室に多くの方が詰めかけ、孔子像の前に来場者と熱気ある質疑応答のひと時を過ごすことができました。

そして、当時の祭典が如何に望まれていたかを物語る小さな孔子像も茗溪会で初公開することができました。写真はもちろん湯島聖堂で孔子祭典が開催された年に制作されたもので、湯島聖堂の孔子座像を模刻した、彫刻家山中泰山の制作となる石膏像で、像底に銘文が刻まれ、3千体制作した一体であることを伝えています。

嘉納治五郎は、筑波大学の前身である高等師範学校および東京高等師範学校の校長として三期二十三年の余にわたり、明治期から大正期のわが国の教育改革に大きな足跡を残した教育者でありましたが、それにとどまらず、彼は講道館柔道の創始者であり、東洋で最初のI O C（国際オリンピック）委員であり、わが国スポーツの道を開いた人としても知られています。

また、嘉納治五郎は東アジアの文化交流でも、大きな貢献をしています。牛込に弘文学院を創設し、多くの中国の留学生を受け入れました。最終的には七千人もの留学生を受け入れ、魯迅も彼のもとで学んでいます。

このたびの展観は、文武に秀でた人、嘉納治五郎の文化的な側面を、孔子祭典復活と題し、公開いたしました。展覧会では左の書も解説パネルとして展示しました。嘉納治五郎は哲学館（東洋大学）で倫理学の講義も行い、その中でも「德行」を述べています。孔子祭典委員長として、また東京高等師範学校校長として、この書は彼の教師としての自負であり、思想ではなかったかと思えます。

句)」という枠組みは強固なことから、(4)のような文の there のうち、この枠に当てはまる斜字体の there は機械的に虚辞とみなせる（なお、疑問文では there と be は入れ替わる）。

- (4) a. *There's* more milk here.
b. *There's* still no water there, is *there*?
c. *There's* no proof *there* was any criminal action.
d. And when you left your car, were *there* any others there?

2.3 虚辞の there の起源

虚辞の there の起源を探る場合、there を用いずに「～がい
る/ある」という意味を表わす (5a, b) のような例が有力な手
がかりとなる。これらの文では、動詞を be に変えると非文法
的となることから（もっとも、(5c) のような例は皆無ではな
い）、be 動詞を存在の意味で用いる場合、ほぼ義務的に there
が形式主語となる。それゆえ、(5a, b) の *印の文も there が
挿入されると、(5d, e) のように文法的となる。

- (5) a. On the grass sat an enormous frog.
*On the grass was an enormous frog.
b. Directly in front of them stood a great castle.
*Directly in front of them was a great castle.
c. Among the names underneath the photo was
Aldermann.
d. On the grass there was an enormous frog.
e. Directly in front of them there was a great castle.

1400年頃の『マンデヴィル旅行記』は虚辞の there の起源
を探る格好の情報源であり、現在では許容度の低い (6a) の
ような「場所の前置詞句 + be 動詞 + 主語」という存在文が
圧倒的に多い。(6a) に there が挿入されたと移動した (6c)
のような例は多くない。それゆえ、(6)の例は there 構文の史
的発達の過程を探る有力な根拠になりうる。

- (6) a. Also at the entree of the Mount Syon is a chapelle
'Also at the entrance of the Mount Sion is a chapel'



- b. In Egypt *there* ben v. prouynces 'In Egypt there are
five provinces'
c. because that *there* is often feyres in that playn.
'because there are often fairs in that plain.'

3 there 構文の成立

3.1 there の語源

there が it と同様に代名詞とみなされる原因を探るために、
there の語源を調べてみた。以下、印字の都合で旧綴り字は
現代式に直してある。

there はゲルマン祖語の「そこに」という意味の ther (印欧
祖語の指示代名詞 to 'that' + r (副詞を作る語尾) に由来する。
ther は古英語では副詞か接続詞に限られるが、thereby,
therein, therewith などの複合語の there には「それ」という
本来の指示的意味も含まれている。さらに、これらの複合語
は目的語 + 後置詞という極めて古い造語法で作られている
ことから、there には古い指示的意味が封じ込められたまま
今日に至っていると考えられる。

3.2 2 種類の there の関係

これまでの分析から明らかなように、場所を表わす副詞の
there には指示作用がある。このような特徴は虚辞の there
には現れないが、この語に固有の代名詞としての特徴は潜在
的に維持されている。

そこで、これら 4 つの特徴を「副詞的」(adverbial)、「場所
的」(locative)、「指示的」(demonstrative)、「代名詞的」
(pronominal) という「素性」(feature) で表わし、それぞれ
の性質の有無を +/− で記すと、副詞の there は [+adverbial,
+locative, demonstrative, −pronominal] と表わせるが、虚
辞の there はこれとは正反対の指定を受けた [−adverbial,
−locative, −demonstrative, +pronominal] となる。

それゆえ、there は 4 つの性質から成る 1 つの実体である
が、それぞれの性質の現れ方によって「副詞」か「虚辞」か
が決まることになる。

3.3 there 構文の成立

存在を表わす文は一般に「場所」が明記されるが、場所の
前置詞句で始まる存在文の動詞の前に主語を提示する必要が
生じた時に、形式主語として選ばれたのは it ではなく there
であった。これは当然の成り行きである。

場所の副詞の there は指示代名詞から派生し、その意味と
機能を内在化していたことから、形式主語を提示せざるを得
ない言語上の状況が生じた時に、場所の前置詞句の直後に
there を虚辞として挿入するのが最善の策とみなされたと考
えられる。前置詞句が節の後方に移動したのはその後のこと
である。」

今回の講演は内容がかなり難しいものとなりましたが、終
了後も熱心な質疑応答が続き、楽しく充実したひと時となり
ました。

藤原教授の英語のはなし 第14弾

「英語の難問に挑戦しませんか？」

講師：藤原 保明 (筑波大学名誉教授)

第14回目の今回の講演では、There is a book on the desk. のような there がなぜ「そこ」という場所を表わさず、しかも形式主語として用いられるのかという難問の解明に挑んだ。

1 英語のこだわり

1.1 語順にこだわる

世界の言語の大半は「SVO」(英語、ドイツ語など)、「VSO」(ウェールズ語など)、「SOV」(日本語、トルコ語など)のいずれかの語順を示す(以下、Sは「主語」、Vは「動詞」、Oは「目的語」を表わす)。

英語は日本語と同じSOV言語であったが、SVO言語へと切り替わった。古英語(700～1100年頃)はSOVからSVOへの変化の過渡期であった。現在はこの変化は完了していて、主節でも従属節でもSVOが用いられる。

1.2 主語にこだわる：形式主語のit

英語では、日記などの特殊な用途を除き、主語は一般に明記される。この主語は、同一文中の動詞によって表される動作・運動などの主体を表すとは限らず、形式上、主語の位置を占めているにすぎないことがある。このような主語は「形式主語」または「論理的主語」と呼ばれ、itやthereが用いられる。

形式主語のitには(1a)のように特定の事物を指すことのない「虚辞のit」(empty 'it')と、(1b)のように下線で記した後続の句や節を指す「予備のit」(preparatory 'it')の2種類がある。

- (1) a. i. It is raining. (=The rain is falling.) (天候)
ii. It's far from here. (距離)
iii. It's nine o'clock. (時間)
- b. i. It seems that he has married Hanako quite recently.
ii. It's very kind of you to help me.
iii. It's no use crying over spilt milk.

1.3 主語にこだわる：形式主語のthere

「～がいる、～がある」という意味を表す文は「存在文」と呼ばれる。英語の場合、haveを用いた(2a)のような「have

存在文」もあるが、「虚辞のthere」を用いた(2b, c)のようなthere構文が一般的である。ちなみに、(2b)のthereは、同じ節の中にhere in Japanという場所が明記されていることから、「場所の副詞」ではなく虚辞である。場所の情報はhere in Japanのように一般に包括的なものからより具体的なものへという順に提示される。それゆえ、(2c)のthereは直前の場所の前置詞句in the rest of the worldと照応しない虚辞となる。

- (2) a) Japan has a population of a little more than a hundred million. Luckily enough, b) there are no starving people here in Japan, but c) in the rest of the world there are numerous countries where the majority of people are starving.

2 虚辞のthereの特徴

2.1 2種類のthere

代名詞のitを(1)のように形式主語として用いても文法上支障はないが、主語になれない「場所の副詞」のthereを(2b, c)のように形式主語として用いると、「副詞の主語」と「動詞の前の形式主語と後方の意味上の主語の重複」という2つの問題が生じる。そこで、この節では「場所のthere」と「虚辞のthere」の区別と特徴を確認しておきたい。

- (3) a. 場所のthereには「前方照応」と「後方照応」という2種類の指示機能があるが、虚辞のthereにはこの機能はない。
- b. 場所の副詞のthereは主語にはなれないが、存在のthereは形式主語になれる。
- c. 場所のthereは種々の動詞と共起するが、存在のthereの大半はbe動詞と共起する。
- d. 場所のthereを含む文の主語には制約はないが、存在のthereで導かれる文の意味上の主語は一般に不定名詞句である。

2.2 2種類のthereの見分け方

現代英語の場合、存在文の「there + be + 主語(+前置詞

◆東京教育大学農学部林学科 昭和53年卒クラス会

と き 平成28年5月14日(土)

ところ 旧農学部跡地

昭和53年3月に卒業した東京教育大学最後の学生です。

(池田)



◆東京教育大学教育学部心理学科 第16回生クラス会

と き 平成28年5月28日(土)

ところ 茗溪会館

40年ぶりのクラス会。25人中17人参加という数に驚きと喜びを感じながら名前の順に着席。「久しぶり～」の声が飛び交いました。幹事の進行で、亡くなった方への黙祷から乾杯、昼食をとりながらの近況報告、懇談とあつという間に2時間半が過ぎて記念撮影。解散後、教育大跡地・占春園を学生時代の思い出と共に散策。それでも別れ難く、お店を探して十数人おしゃべりタイムを過ごしました。



◆第9回筑波大人文三期同窓会

と き 平成28年6月4日(土)

ところ 晴海グランドホテル

わたくしどもは、筑波大学開学3年目に入学した人文学類の三期生ですが同期のなかにはホテル社長やら全国高等学校協会長や、各県の校長会の会長さんも多数、また母校筑波大の大学教授もおられ多士済々です。

以前は、蹴球世界戦の4年毎に開催してきたこの同期会も写真後列中央のホテル社長・片山達哉氏のご好意により毎年開催しております。

(文：浅井一郎)



◆筑波大学男子アイスホッケー部 創部40周年記念式典

と き 平成28年7月16日(土)

ところ 茗溪会館

我が筑波大学男子アイスホッケー部は、今年創部40周年を迎え、記念式典を茗溪会館にて開催いたしました。名誉会長やOB・OGの皆様をお招きし、ホッケー部の昔、そして今を語り合うことができました。私共現役といたしましては、40年間の歴史と伝統の上に自分たちの活動が成り立っているのだということを実感すると同時に、今後も伝統を継承しつつホッケー部をより良いものにするために考える契機となりました。

第38期 OB・OG係 石垣黎子(いしがきれいこ)



◆昭和42～45年卒 東京教育大学バレーボール部

4学年合同同窓会

と き 平成28年9月1日(木)～2日(金)

ところ 横浜みなとみらい「万葉倶楽部」

【この会の概略】昭和41年春のリーグ戦で、久しぶりの2部優勝を果たし、1部復帰を目指して1、2部入替戦に臨んだメンバーが中心となる集いです。会は各学年が持回りで幹事役を担い、夏季五輪開催年に合わせて企画(バルセロナ五輪時が初回)。平成10年の長野冬季五輪からは2年間隔で開催。当初は男子部員だけの集まりでしたが、平成12年からは監督はじめ女子部員や先輩方にも参加を呼び掛けて現在の形に(現会員数36名、物故者3名)。さすがに年齢を感じますが、ご参加の皆さんは頗るお元気でした。

(写真&文：川岸)

後列左から 高野・小塩・岡田・高橋・草薙・佐藤・小高(幹事)・不老・鈴木(幹事)

前列左から 柏森・楠田・本多監督・後藤・岩崎・川岸(幹事)・中村(撮影時中座)



◆東京高師昭和24年卒理二有志の会（物・化・地学）

と き 平成28年10月19日（水）

ところ 茗溪会館

今年、我々は米寿を迎え、あるいは越えました。元気で集まれたことを祝福し合い、楽しい語らいのひと時を過ごしました。来年また集まろうを合言葉に散会。写真は、後列左から石橋、伊藤、古村、森。前列は井下田、黒羽、飯村、中園。世話人：中園、黒羽、飯村です。（写真・文責：飯村）



◆平成28年度東京教育大学農学部農芸化学科
昭和43年度入学生クラス会

と き 平成28年10月22日（土）

ところ 茗溪会館

卒業後、四十数年ぶりのクラス会の開催でした。参加者は14名でしたが、長野、大阪、山梨など遠方からも参加して頂き、一気に四十数年前にタイムスリップして懐かし旧交を温めました。次回の幹事も積極的に引き受けようとの申し出もあり、名残りを惜しみつつも次回への期待を胸に秘めて散会致しました。



◆昭和34年卒業 東京教育大学体育学部 女性の会

と き 平成28年10月27日（木）

ところ 渋谷エクセル東急

傘寿を迎え、卒業以来初めての「女性だけの同期会」を開きました。陸上競技部紅一点だった田中良子さんの呼びかけで、同期女性7割の14名が参加。遠く京都から駆けつけた人もあり、全員元気溢刺。流石スポーツウーマンと自画自賛？。東京オリンピックを語り、50数年前と変わらぬ食欲で御馳走を平らげ、再開を約して散会しました。（文責 築地弥生）



◆昭和37年卒 東京教育大学体育学部 無二会

と き 平成28年10月22日（土）

ところ ユーハイム千駄ヶ谷店

私達は昭和37（1962）年に卒業し、無二（62）会と名乗っています。卒業54周年大会は「喜寿の祝」で、51名が出席しました。人生は、筋書のないドラマですが、私達の素晴らしい人生ドラマでした。同志道友を喜び合い、桐の葉をうたって解散しました。

世話人：石橋、片倉、杉山、大谷、三弊、河本です。



◆東京教育大学理学部地理学科 昭和37年入学クラス会

と き 平成28年11月4日（金）

ところ 茗溪会館

平成16年に最初の会を催し、以後、4年毎に実施し今回4回目となりました。これまでは、10人以上が集いましたが、今回は最少となりました。（写真：中山茂樹 文責：長坂政信）



茗溪・東西南北

平成28年度島根県茗溪会

総会及び懇親会報告



市で開催する予定です。
多くの皆様の参加をお待ちしております。

平成28年度大分茗溪会

総会及び懇親会報告

昨年度の大分茗溪会総会・懇親会が、平成二十八年二月二十日(土)に大分市内で三十六名が参加して開催されました。現在、総会が大きな事業活動となっており、が、会員に対する慶弔活動等も行っています。

昨年度の総会は、高倉志能大先輩(昭和二十五年・農・教卒・九十歳)が参加して下さり、矍鑠としたお姿に触れ、そして貴重なお言葉をいただき、後輩一同、今後の元氣と活力をいただきました。総会では、①平成二十七年事業報告・会計報告、②会則の変更、③役員の選出、④代議員の選出が審議され、いずれも全会一致で承認・可決されました。特に会則の改正は、支部組織の変更に伴うもので久方ぶりの改正となりました。

総会後に足立真也参議院議員(昭和五十七年・筑・医卒)からのミニ国政報告会を開催し、足立代議員の国政活動に係る報告をお聞きした後、懇親会を開催しました。懇親会では、各テーブルで話が弾み、そして、出席者全員から近況等のスピーチもいただき、和やかな中、予定された時間もあつという間に過ぎ、最後に全員で肩を組み「宣揚歌」を斉唱して盛会のうちに終了し、次回を楽しみに散会しました。

さて、本会の課題と取り組みについて、少し述べたいと思います。課題としては、まず、①会員の把握が十分でないことがあります。事務局等で会員の住所等の把握に鋭意取り組んでいるところですが、すべての把握が難しい状況にあります。

このことに伴い、②会費の納入が少ないこと、③総会・懇親会の出席者が少ないことがあります。また、④個人情報との関係から会員名簿を配布できないこと、⑤事務局も勤務の傍ら、本会の仕事をしている関係から会員に対して多くの情報発信ができないこと、などが挙げられます。



熊本茗溪会活動報告

4月14日21時26分以降に発生した熊本県を中心とする一連の地震活動により、本県は未曾有の被害を受けました。特に、4月16日未明に発生した「本震」は甚大な被害をもたらした。熊本支部においても多くの会員が被災いたしました。

この平成28年熊本地震は、震度6弱以上の地震が7回発生し、うち震度7の地震が28時間内に2回発生しましたが、これは観測史上初のことであり、その後も余震は現在まで二千回を超えました。

「前震」、「余震」による被害はもとより、この「終わりのなき地震」が県民に与えている不安、精神面のダメージは計り知れないものがあります。

このような現状のなか、茗溪会熊本支部におきまして

これらの課題に対応し、本会を活性化するとともに、会員相互の交流と絆を深めることを目的に、昨年度、少人数による懇談の場を二回設けて協議をしました。

参加者から出された主な意見として、①「学部・学科・学群・専攻」・「女性会員」・「卒業年度」・「部活動・サークル」等での懇親会の開催、②インターネット等を通じた情報発信、③卒業年度を数年ごとに区分して担当者を決め連絡等を密にする、などが出されました。その後、懇談の場を複数回設ける予定でしたが、諸事情で開催できず、本会の活性化と会員相互の連携に向けて努力していきたいと考えています。

なお、本年四月の「熊本・大分地震」に際しまして、茗溪会本部及び本部定時総会出席代議員の皆様方から大分茗溪会に心温まる見舞金を頂戴いたしました。紙面をお借りしまして、心から感謝と御礼を申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の御健勝と御活躍、茗溪会の、今後益々の御発展・御隆盛を心からお祈り申し上げます。



静岡県茗溪会活動報告

は、例年6月に開催している総会につきましても開催を見送り、現在、年度内の総会開催を目指し、準備を進めているところです。

この震災発生直後より、全国の茗溪の皆さま方からは、物心両面に渡り、温かいご支援をいただき、大変、感謝しております。

この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

末筆ながら、益々の茗溪会のご発展を、心よりお祈りし、結びといたします。

静岡県茗溪会では、毎年一回、総会を開催しています。開催時期は、会員が参加しやすいように、全国高等学校野球選手権静岡大会が始まる前を基本としています。

新年度に入り開催案内を送付、出席者を確定し準備を整えると、おおむね七月の第一週の日曜日となります。

今年も七月三日(日)に静岡市内のクーポール会館において開催され、三十三名が参加しました。総会は支部長挨拶で始まり、本部長の川田孝一様より、ご祝辞と本部の様子を伺いました。続いて、静岡県立大学食品栄養科学部教授の小林公子先生を講師にお迎えし、「食と健康」と題し御講演いただきました。筑波大学大学院医学研究科博士課程を修了された先生は、静岡の特産でもあるお茶の歴史や効用だけでなく、御専門の「人類遺伝学」にも触れながらお話しくださいまし

た。加えて、筑波大学の昔の懐かしい写真等も用意してください、大学の様子も取り混ぜて、大変興味深くお話を伺うことができました。

その後の懇親会では、東京高等師範学校出身の大先輩から、今年度に新規採用となったニューフェイスまで、二十八名が旧交を温めたり、情報交換に花が咲いたりしました。最後に、宣揚歌として万歳三唱で閉会となりました。来年度は七月二日(日)に開催の予定です。

昭和から平成にかけて、茗溪会静岡支部は会員数も多く、総会出席者も五十人を遙かに超えるほど盛況でした。この頃は、事務局は地域の拠点校に置かれることが多く、会員が多い高校では学校単位でも親睦会が開かれていました。資金にも余裕があったため、平成六年度には民間の茗溪会員様にも総会案内を送付しました。しかし、返事が無い場合も多く、総会への参加者は増えませんでした。やがて徐々に総会参加者が減りだし、若手の会員の参加を促すために講演会なども企画され、現在に至っています。

昭和から続く地域組織や高校の各教科別組織の中には、今も盛大に懇親会を実施している組織があります。写真は昨年度の数学科の懇親会、茗溪会の様子です。体育科や理科にも若手も参加する懇親会があり、継続・発展の可能性を感じます。

静岡では、昨年七月に韮山反射炉が世界文化遺産に正式登録されました。自然と歴史に恵まれたこの地で、伝統ある茗溪会のさらなる発展を目指すつもりです。

第四回・東京都茗溪会

去る十一月二十七日(日)第四回東京都茗溪会の会が六〇名の参加者を得て開催されました。

東京の支部活動活性化の切り札として組織された本会も四年目となりました。

総会では高橋基之会長の挨拶の後、茗溪会理事長・江田昌祐様から、新しい動きである「産業人交流会」が毎



月第三水曜日に茗溪会館で情報交換会を開き盛んになりつつあること、筑波大学副学長・伊藤眞先生からはリオリンピックパワリンピックで多くの筑波大学関係者が活躍したことのお話がありました。

議事では、都茗溪会が次年度から組織を一本化する規約に改正されました。

そのため本会も今回をもって都の字を取った「東京茗溪会」に変わります。

記念講演では「オリンピックの力」をテーマとして女子柔道コーチとして世界的に有名な筑波大学体育系准教授

で現東京都教育委員の山口香先生の講演が行われました。先生は「コーチングとは相手の中にあるものを気づかせたり引き出したりすること」としてティーチングとの違いに触れられ、選手に伝えるのではなく自問自答させ、その答えを自発的に導くことが大事なことだとお話しされました。また「オリンピックは世界への窓」であり、我が国に世界中から人がやってくる。その時までに我々は何をすべきかもコーチングしていただきました。その後、山口先生も交えて交流会も楽しく行いました。

来年平成二十九年は、十一月二十六日(日)の予定です。同窓が集い人脈を広げ役に立つ会ですので是非ご参加ください。

(事務局長・徳田安伸)



茗溪学園だより

白川英樹博士（ノーベル化学賞・筑波大名譽教授）化学の日特別講演会

10月24日（月）、「化学の日」@茗溪学園中学校高等学校「講演会（主催は日本化学会、茗溪学園、「夢・化学」21委員会（三者）が、本校第一体育館で開催されました。中学3年生から高校2年生までの3学年の生徒と教職員など約800名が参加しました。

「化学の日」は、アボガドロ定数（ 6.02×10^{23} ）に由来して10月23日となっています。「日本化学会」では、化学や理科に関心を持ってもらう機会として、全国各地で様々なイベントを開催しているそうですが、その一環として、本校での講演会が実現しました。「次世代の化学を担うのは君たちだ！」と銘打ち、ご講演くださったのは、2000年にノーベル化学賞を受賞された筑波大学名誉教授の白川英樹先生、理化学研究所研究顧問・玉尾皓平先生、青山学院大学教授・長谷川美貴先生、3名の皆様方でした。



「失敗実験で得たこの産物がノーベル賞に繋がる『ポリアセチレン』であった」とお話しする白川先生

まず白川先生が、基調講演として、「学ぶ」ということに、子供時代からノーベル賞受賞に至るまでの経過をたどる形で話をしてくださいました。子供時代は理

科全般が好きで、昆虫や植物採集によく行かれたこと、そういう中で自然、本物に触れる大切さを学んだことが現在の研究姿勢に生かされているということでした。

そして、「セレンディピティ」という言葉を紹介され、偶然から大発見を得ることについてお話されました。まさに、ノーベル賞の対象となった電気を通すプラスチック「ポリアセチレン」の大発見は、触媒の濃度を間違えるとという失敗から偶然に見つかったもので、このようなセレンディピティには、「やってくる偶然」と「迎える偶然」がありますが、この失敗実験は「やってくる偶然」と言えるものでした。セレンディピティに恵まれるためには、多くを学びたくさんの経験を積み、何事にも興味を持って努力を怠らず、偶然に潜むチャンスを見逃さない知性を持つことが大切です。何回も何回も実験を繰り返す根気とあきらめない気持ち、失敗の中に隠れている重要なものを感じ取る力が大事なのです。と、生徒たちに語りかけてくださいました。

玉尾先生のご講演は、『一家に一枚周期表』にみるわが国の科学技術の底力」というテーマでしたが、元素記号のついたネイルアートや、元素ネイルポストカードの紹介から始まり、とても楽しい雰囲気の中でお話をしてくださいました。

長谷川先生のテーマは、「Hey! It is so cool! 未来を照らすレアアース」でした。後半「光るプレスレット」が配布され、私たちの生活の中に身近にレアアースがあること教えてくださいました。光るプレスレットを着けてみんなで手を振ると、体育館がまるでコンサート会場のような状態になり、全員大いに盛り上がり、まさしく本物に触れる体験的な学びとなりました。

講師の先生方のお話を楽しく聞きながら、生徒達には「化学」を身近に感じることで、た、とても貴重で有意義な時間となりました。

茨城県知事賞・読売新聞社賞受賞

科学部生物班 第60回日本学生科学賞県作品展

10月23日（日）、「第60回茨城県児童生徒科学研究作品展兼日本学生科学賞茨城県作品展」の表彰式が、坂東市の茨城県自然博物館で開催され、本校科学部生物班に所属する生徒4名が、高校の部で最高賞に当たる茨城県知事賞・読売新聞社賞を受賞しました。



海藻の実験をする科学部生物班の中学生部員（本校生物実験室にて）

4人はいずれも高校1年生で、男女各2名の研究グループです。中学2年の時からこのテーマで研究を続け、失敗を重ねながらも試行錯誤の実験を繰り返してきました。研究内容は、ハツカダイコンの根が土中で障害物とぶつかったときの伸び方について調べたものです。なおこの研究は、11月19・20日に開催された日本学生科学賞中央予備審査会に出品されました。

他にも、高校の部で茨城県高等学校教育研究会長賞を高校3年生生徒が、中学の部では中学3年生が茨城県教育研究会長賞を受賞しました。

部活動など結果報告（9～11月）

【中学全国大会】

◎**中学ラグビー部**：第7回全国中学ラグビー大会（会場：茨城県水戸市）、初戦惜敗するも敗者戦を勝ち上がり5位。12月冬休期中、東日本大会出場（東京開催）、全国ジュニアラグビー大会（大阪開催、茨城選抜として）出場。

【高校県大会】

◎**高校ラグビー部**：第96回全国大会県予選優勝（55-19で勝利）。5年連続22回目の全国大会出場（12月27日から東大阪市花園ラグビー場）。

【中学県大会】

◎**剣道部**：女子団体優勝・女子個人優勝（ともに2連覇）、男子個人準優勝。

◎**体操部**：男女団体ともに準優勝、女子個人優勝。

◎**バドミントン部**：男子団体優勝、男子ダブルス優勝、男子シングルス準優勝。

【文化部】

◎**科学部生物班（高校）**：茨城県高文連自然科学部門・生物部門最優秀賞（来年夏、宮城県開催の全国総文祭出場）

追 悼 録 (敬称略)

山地英太郎 15研 28・11・11 長男 山地 英彦
 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町5-3-27
阿部四郎左工門 17休二 28・4・7 妻 阿部 トモ
 〒999-5401 最上郡金山町有屋930
菅野 秀男 19理二 28・9・21 妻 菅野 殉子
 〒184-0003 小金井市緑町2-12-4
吉川 晴夫 22文五 28・8・9 長男 吉川 紳
 〒420-0841 静岡県葵区上足洗2-6-28
岩尾 亨 22休専 28・5・3 長男 岩尾 洋一
 〒861-3207 上益城郡御船町御船758
松本 旭 24大國 27・10・30 次男 松本 千明
 〒362-0037 上尾市上町2-3-4
一木 壽一 24理二 28・7・4 長女 長田 裕里
 〒168-0073 杉並区下高井戸4-31-7-109
富田 保雄 24農教 27・8・10 長男 富田 寿人
 〒437-1421 掛川市大坂6990
山崎 金一 24農教 28・3・30 長男 山崎 巖
 〒343-0045 越谷市下間久里886-69
沼口 広司 25文一 28・9・7 妻 沼口 美子
 〒336-0021 さいたま市南区別所2-10-16
木村 辰夫 25理一 28・9・9 長男 木村 正実
 〒331-0823 さいたま市北区日進町1-541
井出 賢次 26文二 28・10・27 妻 井出 鏡子
 〒386-0005 上田市古里1012
中村 清史 26文四 28・7・16 妻 中村 央子
 〒360-0013 熊谷市中西4-1-37
栗原 芳 26農教 28・3・4 次女 関口 洋子
 〒339-0082 さいたま市岩槻区西原1-3-110
萩原 博 27大数 26・10・17 娘 寺田 裕子
 〒939-0351 射水市戸破1839-2
渋谷 健 27文一 28・6・28 妻 渋谷 成子
 〒350-0838 川越市宮元町4-6
永井 豊彦 27休 28・5・18 妻 永井 ミツキ
 〒836-0012 大牟田市明治町3-31
橋本 文一 27農教 28・9・7 妻 橋本 泰子
 〒276-0033 八千代市八千代台南2-3-13
延江 正昭 28教大 28・9・7 妻 延江 里子
 〒184-0002 小金井市梶野町2-10-2
加藤 章 29教大 28・2・6 妻 加藤 重子
 〒020-0024 盛岡市菜園1-3-15
鈴木 憲 29教大 28・6・2 妻 鈴木 律枝
 〒413-0411 賀茂郡東伊豆町稲取428
押上 和喬 29教大 28・7・31 妻 押上 佳子
 〒112-0006 文京区小日向2-29-5

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

富山 正治 29教大 28・9・27 長女 岡本 享子
 〒931-8316 富山市豊丘町22-21 富山様方
林田 昭喜 29教大 28・4・28 長女 布施真喜子
 〒639-2112 葛城市笛堂597
中田 基臣 30教大 27・11・14 妻 中田 きぬ
 〒270-0034 松戸市新松戸3-296-壹-D-402
横山 武士 30教大 27・5・7 妻 横山 京子
 〒120-0012 足立区青井3-10-43
酒井 志郎 31教大 28・6・18 妻 酒井 浩子
 〒143-0025 大田区南馬込5-43-8
森 米二 33教大 27・11・1 妻 森 和枝
 〒487-0032 春日井市高森台3-20-13
関岡 康雄 33教大 28・9・12 妻 関岡恵美子
 〒300-0331 稲敷郡阿見町阿見4284-39
沼沢 研一 34教大 28・10・1 妻 沼沢 洋子
 〒223-0064 横浜市港北区下田町3-17-16
中島 豊雄 34教大 28・7・2 妻 中島千恵子
 〒483-8235 江南市布袋町中150
宮丸 凱史 35教大 28・8・15 妻 宮丸千恵子
 〒305-0023 つくば市上ノ室2111-5
川崎 健三 35教大 28・2・4 妻 川崎 澄子
 〒416-0903 富士市松本75
満園 真泰 36教大 28・8・24 妻 満園 和子
 〒709-0721 赤磐市桜が丘東4-4-699
山口 範雄 36教大 28・1・21 妻 山口 豊子
 〒240-0053 横浜市保土ヶ谷区新井町192-42
藤巻 優介 36教大 28・3・31 妻 藤巻 昌子
 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井1505-1
渡邊 勝男 37教大 28・8・1 妻 渡邊 昌子
 〒963-0201 郡山市大槻町北中野下20-6
古澤 邦夫 39院修 28・8・18 妻 古澤千枝子
 〒351-0023 朝霞市溝沼1-5-2コンフェルト朝霞
黒崎 達雄 40研 28・9・11 長男 黒崎潤一郎
 〒355-0017 東松山市松葉町2-13-2
鈴木 通雄 41研 28・9・17 妻 鈴木 フク
 〒328-0027 栃木市今泉町1-6-20
清水 進一 43教大 28・10・11 妻 清水勢津子
 〒254-0075 平塚市中原1-25-24
秦 修司 48教大 28・8・22 妻 秦 恵美子
 〒920-0955 金沢市土清水2-244
嘉村 茂邦 50教大 28・9・13 妻 嘉村 英子
 〒289-1124 八街市山田台128
楠山千穂子 03筑体 28・5・17 夫 楠山 卓
 〒562-0001 箕面市箕面2-3-4



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正 樹 (学校法人 若溪学園理事)

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：上席執行役員人事部長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究所修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

平成二十八年秋の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

川口 千代 34教大体 36専攻
安田 潤 34教大体 36院修数 (神奈川)
(静岡)

瑞宝小綬章

桐生 貞夫 44教大数 (埼玉)
小室駿一郎 44教大体 (埼玉)
藤崎 武利 45教大体 (千葉)
伊藤駿二郎 30教大農経 (東京)
和田 興卓 28教大地鉦 (東京)
岩見 恒典 35教大体 (愛知)
関 正廣 44教大体 (愛知)
野原 薫 45教大文 48院修中古 (岐阜)
土肥 勇賢 62筑修教 (岐阜)
山下 富雄 44教大富 (富山)

瑞宝双光章

佐藤 昌弘 45教大農経 (山形)
館 比佐男 34教大農 (東京)
加藤 光一 26理二 (神奈川)

平成28年春の叙勲(追記)

瑞宝小綬章

東 昌雄 35教大健 (大分)

文化功労者

小野 喬 29教大体 (東京)

広報

教職受験対策研修会

教職員採用試験を受ける筑波大学生のための研修会を今年も次の要領で開催いたします。

期間 平成29年3月6日(月)～8日(水)
会場 筑波学都資金財団 筑波研修センター
定員 50人(先着)
受講料 7,000円のところ、茗溪会が5,000円を補助いたします。
受付 平成29年2月1日(水)～2月28日(火)
筑波研修センターにて

訂正

・前号(平成28年秋号)で誤りがありましたので訂正いたします。
P12 平成28年「追悼のつどい」25行目
(正) 古藤高良元筑波大学教授
(誤) 古藤高良筑波大学名誉教授
・P16の「茗溪フェロー協力者」芳名」に掲載漏れがありました。次号(春号)で追掲載します。

表紙の言葉 デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

機関誌茗溪の表紙写真を担当して3年になります。今号は初めて、活躍中の写真家、斉藤さだむさんの作品を使わせて頂きました。どうしても雪の風景が欲しくて、学内を継続的に撮っている彼に頼みました。雪景色とは言いがたいものですが、うっすら積もった雪と、葉を落とした大木から凛とした空気が感じられます。キャンパスの北端、一の矢宿舎で2012年一月に撮影されました。宿舎のカラーリングはここが最初と記憶します。地区のアクセントとして高彩度を使い、評価が気かりでしたが、北欧のようだと言った留学生の一人から感想をもらった時は、複雑な気持ちでした。

・P9 平成28年度 茗溪会地域組織表の「都庁」を左表のように訂正します。

都	庁
堀川 勝史(61筑体)	代表者
久保田 聡(10筑一自)	事務局担当者
高松 久一(06筑体)	

編集後記

・新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。
・一昨年から始まった特集「筑波大学附属学校を巡る」は今回の久里浜特別支援学校と坂戸高校で終了となりました。6回の特集を通じて、筑波大学の附属学校は、明治期から今日まで、わが国の教育の改革や充実・発展に大きな役割を担ってきたことをあらためて知ることができました。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成29年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

Email info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

Email tsu3inu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

-筑波大学の知の発信-
筑波大学出版会
<http://www.press.tsukuba.ac.jp/>

3月重版予定

観光戦略としての宗教
 長崎の教会群と場所の商品化

松井 圭介 著

2800円＋税

ISBN 978-4-904074-26-8

発売：丸善出版株式会社
 TEL 03-3512-3256
 FAX 03-3512-3270
<http://pub.maruzen.co.jp/>



橋本 昭洋 著

2900円＋税

A5判 152頁

ISBN 978-4-904074-34-3

DEA
 フレックス総合評価法
 社会システム分析
 への適用

新刊



編著

伊藤 純郎・山澤 学

2800円＋税

A5判 224頁

ISBN 978-4-904074-41-1

自然・災害・戦争の
 記憶から学ぶ

破壊と再生の歴史・人類学



高木 英明 編著

3100円＋税

A5判 360頁

ISBN 978-4-904074-30-5

サービスサイエンスとはじめ
 数理モデルとデータ分析
 によるイノベーション



株式会社 阿部兄弟建築事務所

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人 (昭和57
 建築士)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)
 社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
 〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
 TEL 0297 (52) 1 2 2 1 FAX 0297 (52) 1 2 2 0

聖徳大学 大学院

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬55

電話 047-365-1111 (代表)

E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

言語文化 藤原 保明 (昭48教修英
 研究科長 平3 筑博文言)

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡
 2004年卒)



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7

電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケエスアイ**

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
 東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 **長谷工 コーポレーション**

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)1578

常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,700円から
 茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
 シングル145室ツイン5室和室5室／研修室2室 (120・40名)
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
 ●バス／「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー／5分

一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5

TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp



(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

38年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様はもとより、ご家族の方でも特別に、「結婚」を特典付(登録料50%OFF)にてお世話させていただきます。

筑波大コース 登録料
50%OFF

ブライダルコース
¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース
¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

株式会社ブライダルの詳しい情報はホームページをご覧ください。
詳しくは(株)ブライダルと検索してください。

(株)ブライダル

検索

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

ホームページ
携帯サイト

<http://www.bridal-vip.co.jp>
<http://www.bridal-vip.net/m/>



右のQRコードにて携帯サイトにアクセスできます。(一部対応しない機種がございます。)



38年の実績
株式会社

ブライダル

東京本社
Network

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
ブックライナーで注文可  0120-39-8899

Mei-
kei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
- ◆国際バカロレア (IB) 認定校です
2017 年 4 月から IBDP 課程開始
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



SSH 活動報告会

「SS研究・個人課題研究発表会」

(後援：筑波大学)開催のお知らせ

期日：平成29年2月3日(金)

会場：茗溪学園中学校・高等学校

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究)口頭発表・ポスター発表、
ほかにSSH活動成果報告
一般公開いたします。

(詳細は下記メールでお問い合わせください)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)